

「精神医学の社会的基盤」研究会

(1) オープンダイアローグの思想的基盤①

Social Basis of Psychiatry Project Research Meeting #1
'Philosophical Background of Open Dialogue (1)'

日時：2016年7月5日（火） 13:30～17:00

会場: 東京大学駒場Iキャンパス18号館4階
コラボレーションルーム3

使用言語：日本語

Venue: The University of Tokyo Komaba I
Campus, Bldg. 18, 4F, Collaboration Room 3

Language: Japanese

講演：野村直樹（名古屋市立大学）

「なぜベイトソンのダブルバインド理論はオープンダイアローグにとって大切か」

Naoki Nomura (Nagoya City University)

“Why is the Bateson’s double bind theory important for Open Dialogue?”



科研費・基盤研究B（16H03091）精神医学の社会的基盤—対話的アプローチの精神医学への影響と意義に関する学際的研究
研究代表者：石原孝二（東京大学）

JSPS Grant-in-Aid for Scientific Research (B) (16H03091) “*Social Basis of Psychiatry: An Interdisciplinary study of the significance and impact of the dialogical approaches to psychiatry* (April 2016- March 2019)” P.I. Kohji Ishihara (The University of Tokyo)

講演要旨

ベイトソンの考え方とその世界についてご紹介したいと思います。ダブルバインド理論がどのような認識論をともなったものか、またそれがオープンダイアログとどのように関係するか理解いただくことが目標です。そのために、『精神の生態学』の中から「精神分裂症の理論化に向けて」（これがダブルバインド理論の論文です）をテキストとして選び、セミナー形式の講演を行います。

テキスト：Gregory Bateson, Steps to an ecology of mind, University of Chicago Press, G.ベイトソン『精神の生態学』 佐藤良明訳、新思索社